

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2024年11月29日から2034年11月22日まで
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的に新興国を含む世界の債券等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス） 世界の様々な債券（転換社債、ハイブリッド証券、ハイイールド債券等を含みます。） マネー・マーケット・マザーファンド 円貨建ての短期公社債および短期金融商品
当ファンドの運用方法	■主として、新興国を含む世界の債券等から、割安かつ魅力的なりターンが期待される債券等に投資します。 ■実質的な運用は、多様な運用戦略を提供し、高い専門性を有するフロントベル・アセット・マネジメントが行います。 ■実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年4回（原則として毎年2月、5月、8月、11月の22日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

フロントベル・ 世界割安債券ファンド (為替ヘッジあり／年4回決算型) 【運用報告書(全体版)】

第3作成期（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

第 5 期 / 第 6 期

第5期：決算日 2026年2月24日

第6期：決算日 2026年5月22日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、実質的に新興国を含む世界の債券等に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

フォントベル・世界割安債券ファンド（為替ヘッジあり／年4回決算型）

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組入比率	投資信託 証券組入 比 率	純 資 産 総 額
	(分配落)	税 込 分配金	期 中 騰落率			
(設 定 日) 2024年11月29日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 511
1 期 (2025年 2 月25日)	10,090	0	0.9	0.0	97.5	666
2 期 (2025年 5 月22日)	9,962	110	△0.2	0.0	97.5	708
3 期 (2025年 8 月22日)	10,208	120	3.7	0.0	97.5	763
4 期 (2025年11月25日)	10,186	120	1.0	0.0	97.7	1,567
5 期 (2026年 2 月24日)	10,298	130	2.4	0.0	92.0	1,751
6 期 (2026年 5 月22日)	10,113	100	△0.8	0.0	97.1	1,660

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 証券組入 比 率
			騰 落 率		
第 5 期	(期 首) 2025年11月25日	円 10,186	% —	% 0.0	% 97.7
	11月末	10,218	0.3	0.0	97.7
	12月末	10,213	0.3	0.0	97.0
	2026年 1 月末	10,374	1.8	0.0	97.6
	(期 末) 2026年 2 月24日	10,428	2.4	0.0	92.0
第 6 期	(期 首) 2026年 2 月24日	10,298	—	0.0	92.0
	2 月末	10,302	0.0	0.0	97.4
	3 月末	9,999	△2.9	0.0	97.4
	4 月末	10,207	△0.9	0.0	97.6
	(期 末) 2026年 5 月22日	10,213	△0.8	0.0	97.1

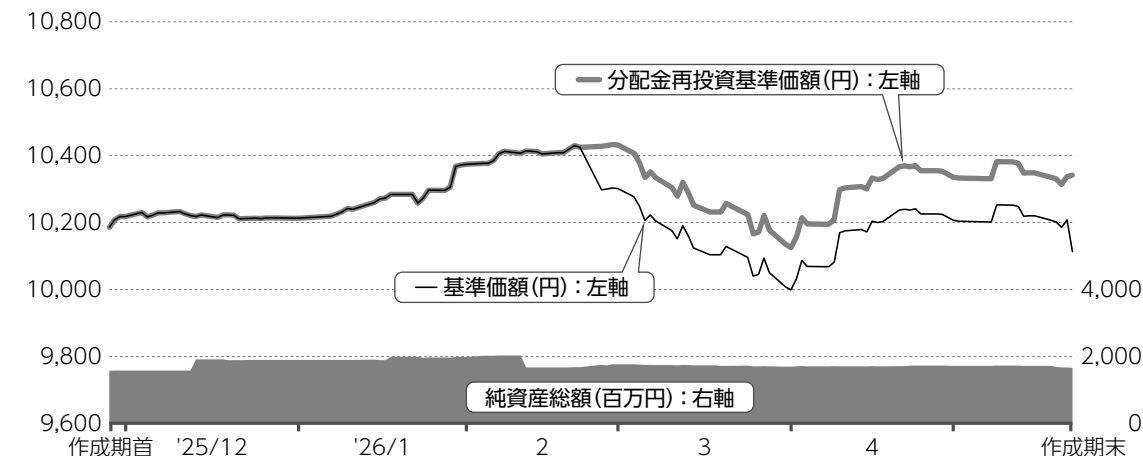
※期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	10,186円
作成期末	10,113円 (当作成期既払分配金230円(税引前))
騰落率	+1.5% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかにについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的に新興国を含む世界の債券等に投資しました。

実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

上昇要因

- 投資した債券から得られる金利収入

下落要因

- 3月の地政学リスク拡大局面で、投資したシニア債（信用力が最も高く返済順位の高い優先債）や、資本性証券の価格が下落したこと
- 同局面で、デリバティブ（金融派生商品）が現物債券をアンダーパフォームしたこと

投資環境について（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

グローバル・ハイイールド社債等の市場は、局所的な下落局面を経ながらも、概ね上昇しました。

今期の金融市場は、中央銀行の見通しの変化、通商面での不透明感の再燃、そして何よりも中東における地政学的緊張の急激な高まり等の複合要因によって形成されました。12月当初の投資家の関心は、F R B（米連邦準備制度理事会）による年内最後の政策判断と、インフレ感应度の高い米国経済の動向に集中していました。その後2026年初頭には、より変動の大きいマクロ・政治環境が到来し、通商摩擦の再燃、F R Bの独立性をめぐる議論、世界的な金利見通しの段階的な修正が進みました。

しかしながら、市場を動かした最大の要因は米国とイランの紛争激化でした。同紛争は第1四半期中に著しく深刻化し、原油価格の急騰、インフレ期待の急上昇、そしてスタグフレーション（景気停滞とインフレの併存）懸念の再燃を引き起こしました。ホルムズ海峡

における海運の混乱は原油価格を急激に押し上げ、市場全体のリスクセンチメントを圧迫しました。一方、エネルギー価格の上昇がディスインフレ（物価上昇率の低下）の軌道を複雑化させました。クレジットスプレッド（国債に対する上乗せ金利）は特に市場感应度の高いセグメントで拡大し、リスク資産は3月中に大きく下落しました。

その後4月から5月初頭にかけては、地政学的緊張が未解決のまま原油価格の変動が続いたにもかかわらず、リスク資産は力強くリバウンドしました。市場は、堅調な企業決算、投資家のセンチメントの改善、3月のスプレッド拡大の部分的な巻き戻しに支えられました。総じて、高いボラティリティ（変動性）、頻繁なマクロ局面の転換、そして資産クラス・セクター間の分散度の高まりを特徴とする期間となりました。

ポートフォリオについて（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

当ファンド

当ファンドは「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（J P Yヘッジドクラス）」および「マネー・

マーケット・マザーファンド」を主要投資対象とし、「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（J P Yヘッジドクラス）」の組み入れを高位に保ちました。

SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・
ファンド(JPYヘッジドクラス)

●債券組入比率

債券を中心に組入れつつ、市場環境の変化
の中で現金等の比率を柔軟に調整しました。

●デュレーション(投資資金の平均回収期間:
金利の変動による債券価格の感応度)

4年～5年程度で推移しました。

●通貨別配分

ユーロ建て、米ドル建て債券を中心に、英
ポンド建て、スイスフラン建ての債券等に投
資しました。米ドル以外の通貨建ての債券等
に投資する場合は、実質的に米ドル建てとな
るように為替取引を行いました。

●地域別配分

欧州を中心に、北米、中南米、アフリカ等
の発行体に投資しました。

●格付け別配分

B B B～B Bを中心に投資しました。

●業種別配分

金融を中心に、輸送、一般消費財、エネル
ギーなど幅広い業種、および国債等に投資し
ました。

マネー・マーケット・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短
期金融商品に投資し、安定した収益の確保を
目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2025年11月26日から2026年5月22日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項 目	第5期	第6期
当期分配金	130	100
（対基準価額比率）	（1.25%）	（0.98%）
当期の収益	130	51
当期の収益以外	－	48
翌期繰越分配対象額	297	166

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」（税引前）の期末基準価額（分配金（税引前）込み）に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の1万口当たりの分配金（税引前）は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）」と「マネー・マーケット・マザーファンド」を主な投資対象とし、「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）」を高位に組み入れます。

SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）

運用チームは、未解決の地政学リスク（特に中東）、なお脆弱な通商・関税情勢、およびエネルギー価格上昇により市場の従来の想

定よりインフレが粘着的となるリスクを背景に、ボラティリティは今後数ヶ月にわたり高水準で推移するとの見方を維持しております。引き続き、新興国を含む世界の債券市場を通じて、相対的に割安かつ魅力的なリターンが期待できる様々な債券等に機動的かつ柔軟に投資します。

投資対象とする債券には、投資適格未満の債券（ハイイールド債券）、転換社債やハイブリッド証券（優先出資証券、劣後債、偶発転換社債（Coco債）等）等を含みます。

マネー・マーケット・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

- 「一般社団法人投資信託協会」を「一般社団法人資産運用業協会」へ名称を変更することとなったため、信託約款に所要の変更を行いました。（適用日：2026年4月1日）

フォントベル・世界割安債券ファンド（為替ヘッジあり／年4回決算型）

1万口当たりの費用明細（2025年11月26日から2026年5月22日まで）

項 目	金額	比率	項目の概要
(a) 信 託 報 酬	48円	0.472%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×（経過日数／年日数） 期中の平均基準価額は10,228円です。
（ 投 信 会 社 ）	(16)	(0.161)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(30)	(0.295)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.016)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(－)	(－)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(－)	(－)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 公 社 債 ）	(－)	(－)	
（投資信託証券）	(－)	(－)	
(d) そ の 他 費 用	0	0.002	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(－)	(－)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
（ そ の 他 ）	(－)	(－)	そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	49	0.474	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

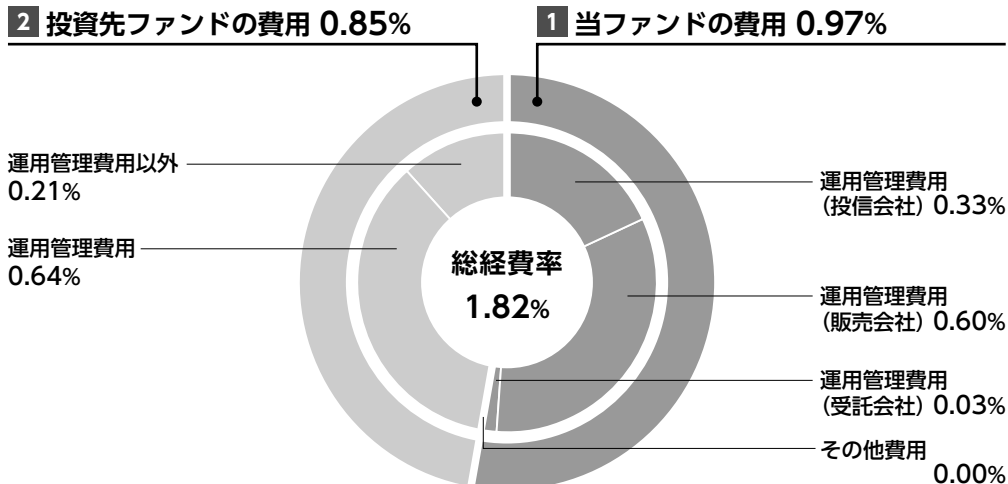
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率（年率換算）



総経費率 (1 + 2)		1.82%
1	当ファンドの費用の比率	0.97%
2	投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64%
	投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.21%

※ 1の各費用は、前掲「1万円当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万円当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※ 2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算した経費率です。そのため、実際に投資しているシェアクラスの経費率とは大きく異なる場合があります。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※ 1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※ 上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.82%です。

■ 当作成期中の売買及び取引の状況 (2025年11月26日から2026年5月22日まで)

投資信託証券

		当 作 成 期			
		買 付		売 付	
		口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
国内	SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）	口 611, 359, 486	千円 639, 408	口 541, 646, 379	千円 570, 352

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

■ 利害関係人との取引状況等 (2025年11月26日から2026年5月22日まで)

利害関係人との取引状況

フロントベル・世界割安債券ファンド（為替ヘッジあり／年4回決算型）

当作成期中における利害関係人との取引等はありません。

マネー・マーケット・マザーファンド

区 分	当 作 成 期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
公 社 債	百万円 2, 283	百万円 1, 129	% 49. 5	百万円 －	百万円 －	% －

※平均保有割合 0. 0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2025年11月26日から2026年5月22日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

フロントベル・世界割安債券ファンド（為替ヘッジあり／年４回決算型）

■組入れ資産の明細(2026年５月22日現在)

(１)ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	作成期首	作 成 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	組 入 比 率
SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ ファンド（JPYヘッジドクラス）	口 1,474,622,576	口 1,544,335,683	千円 1,611,823	% 97.1
合 計	1,474,622,576	1,544,335,683	1,611,823	97.1

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(２)親投資信託残高

種 類	作成期首	作 成 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
マネー・マーケット・マザーファンド	千口 20	千口 20	千円 20

※マネー・マーケット・マザーファンドの作成期末の受益権総口数は1,207,872,716口です。

■投資信託財産の構成

(2026年５月22日現在)

項 目	作 成 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 1,611,823	% 93.5
マネー・マーケット・マザーファンド	20	0.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	112,951	6.5
投 資 信 託 財 産 総 額	1,724,794	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2026年2月24日) (2026年5月22日)

項 目	第5期末	第6期末
(A) 資 産	1,778,560,802円	1,724,794,419円
コール・ローン等	167,540,493	112,951,142
投資信託受益証券(評価額)	1,611,000,220	1,611,823,152
マネー・マーケット・		
マザーファンド(評価額)	20,089	20,125
(B) 負 債	26,563,798	64,647,909
未払収益分配金	22,117,408	16,415,175
未払解約金	—	44,218,530
未払信託報酬	4,423,818	3,971,365
その他未払費用	22,572	42,839
(C) 純資産総額(A-B)	1,751,997,004	1,660,146,510
元 本	1,701,339,101	1,641,517,539
次期繰越損益金	50,657,903	18,628,971
(D) 受益権総口数	1,701,339,101口	1,641,517,539口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,298円	10,113円

※当作成期における作成期首元本額1,539,312,598円、作成期中追加設定元本額634,902,452円、作成期中一部解約元本額532,697,511円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2025年11月26日) (自2026年2月25日)
(至2026年2月24日) (至2026年5月22日)

項 目	第5期	第6期
(A) 配 当 等 収 益	11,972,550円	12,485,682円
受 取 配 当 金	11,843,621	12,391,651
受 取 利 息	128,929	94,031
(B) 有価証券売買損益	29,158,266	△22,291,118
売 買 益	34,532,719	1,793,482
売 買 損	△ 5,374,453	△24,084,600
(C) 信 託 報 酬 等	△ 4,446,390	△ 3,991,632
(D) 当期損益金(A+B+C)	36,684,426	△13,797,068
(E) 前期繰越損益金	750,037	14,534,135
(F) 追加信託差損益金	35,340,848	34,307,079
(配当等相当額)	(20,882,387)	(20,702,215)
(売買損益相当額)	(14,458,461)	(13,604,864)
(G) 合 計(D+E+F)	72,775,311	35,044,146
(H) 収 益 分 配 金	△22,117,408	△16,415,175
次期繰越損益金(G+H)	50,657,903	18,628,971
追加信託差損益金	35,340,848	34,307,079
(配当等相当額)	(20,882,387)	(20,702,215)
(売買損益相当額)	(14,458,461)	(13,604,864)
分配準備積立金	15,317,055	6,613,041
繰 越 損 益 金	—	△22,291,149

※有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	第5期	第6期
(a) 経費控除後の配当等収益	10,678,226円	8,494,081円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	26,006,200	0
(c) 収益調整金	35,340,848	20,702,215
(d) 分配準備積立金	750,037	14,534,135
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	72,775,311	43,730,431
1万口当たり当期分配対象額	427.75	266.40
(f) 分配金	22,117,408	16,415,175
1万口当たり分配金	130	100

■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)	第5期	第6期
	130円	100円

※分配金は、分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額「普通分配金」となり課税されます。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は下回る部分が「元本払戻金(特別分配金)」となり非課税、残りの部分が「普通分配金」となります。

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

■組入れ投資信託証券の内容

投資信託証券の概要

ファンド名	SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）
形態	ケイマン籍契約型投資信託（円建て）
主要投資対象	世界の様々な債券（転換社債、ハイブリッド証券、ハイイールド債券等を含みます。）
運用の基本方針	●世界の様々な債券（転換社債、ハイブリッド証券、ハイイールド債券等を含みます。）に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 ●投資目的の達成または信用リスクなどのヘッジを目的として、デリバティブ取引（先渡取引、先物取引（債券先物を含む）、金利スワップ取引、トータルリターンスワップ取引、クレジット・デリバティブ取引（CDX（クレジット・デフォルト・スワップを参照した指数）を含む）等）を活用します。 ※先物取引や各種スワップ取引等のデリバティブ取引を純資産総額の0～500％程度の範囲で行うことがあります。したがって、ファンドの基準価額は債券市場全体の動きと比べて大きく変動することがあり、また異なる動きをすることがあります。 ●米ドル以外の通貨建ての債券等に投資する場合は、原則として、実質的に米ドル建てとなるように為替取引を行います。 ●原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。
主な投資制限	●1発行体あたりの投資割合は、純資産総額の10％以内とします。 ●資産担保証券等の証券化商品の投資割合は、純資産総額の20％以内とします。 ●CoCo債の投資割合は、純資産総額の20％以内とします。 ●転換社債等の投資割合は、純資産総額の25％以内とします。 ●純資産総額の10％を超える借入れは行いません。 ●同一発行体に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーは、原則として、それぞれ純資産総額の10％以内、合計で純資産総額の20％以内とします。
分配方針	毎月分配を行う方針です。ただし、分配を行わないことがあります。
運用管理費用	純資産総額に対して 運用報酬：年0.5％ 管理会社報酬：年0.02％程度（最低年30,000米ドル） 事務代行会社報酬：年0.07％程度（最低年66,000米ドル） ※上記のほか、受託会社報酬（年15,000米ドル*）がかかります。 *見直す場合があります。 また、年間最低報酬額として保管会社報酬（最低年36,000米ドル）等が定められているほか、取引ごとにかかる費用等が定められている場合があるため、純資産総額の規模や取引頻度等によっては、上記の料率を上回ることがあります。
その他の費用	ファンドの設立費用、取引関連費用、法的費用、会計・監査および税務上の費用ならびにその他の費用を負担します。これらは、ファンドの運営状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
申込手数料	ありません。
投資顧問会社	フォントベル・アセット・マネジメントAG
購入の可否	日本において一般投資者は購入できません。

以下には、「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド（JPYヘッジドクラス）」をシェアクラスとして含む「SMDグローバル・クレジット・オポチュニティーズ・ファンド」の情報委託会社において抜粋、要約して翻訳したものを記載しています。

■ 包括利益計算書 (2025年 9 月30日に終了した期間)

(単位：米ドル)

収益

受取利息	6,701,157
現金及び現金同等物に係る為替純損益	78,239
損益を通じ公正価値で測定される金融資産及び負債のその他純変動	6,191,759
その他収益	5,518
収益合計	12,976,673

費用

管理事務代行報酬	83,624
受託会社報酬	26,341
監査報酬	37,129
保管報酬	141,462
運用報酬	490,846
管理報酬	25,143
弁護士報酬	62,030
ファンド設立費	148,019
その他費用	53,533
費用合計	1,068,127

運用による損益

11,908,546

金融費用（受益者に帰属する純資産の増加分を除く）

受益者に支払った分配金	4,355,290
-------------	-----------

分配後税引前利益

7,553,256

源泉税

35,076

運用による受益者に帰属する純資産の増減額

7,518,180

■組入上位銘柄

（基準日：2025年9月30日）

	銘柄名	クーポン	償還日(*)	組入比率
1	Goldman Sachs International	5.050%	2029/12/20	3.3%
2	Citigroup Global Markets Funding Luxembourg SCA	5.130%	2029/12/20	2.2%
3	CNP Assurances SACA	3.605%	2026/3/11	1.8%
4	Republic of Cameroon International Bond	9.500%	2025/11/19	1.7%
5	Raiffeisen Bank International AG	6.375%	2031/6/15	1.7%
6	CaixaBank SA	5.875%	2035/3/25	1.7%
7	Banque Ouest Africaine de Developpement	8.200%	2030/2/13	1.6%
8	Fideicomiso PA Pacifico Tres	8.250%	2035/1/15	1.6%
9	Royal Bank of Canada	3.650%	2026/10/24	1.6%
10	Abanca Corp Bancaria SA	6.125%	2031/9/19	1.5%
全銘柄数		138銘柄		

※比率は、純資産総額に対する割合です。

*繰上償還条項が付与されている場合は、原則として繰上償還発効日を償還日とみなして表示しています。

マネー・マーケット・マザーファンド

第15期（2025年3月4日から2026年3月2日まで）

信託期間	無期限（設定日：2011年5月31日）
運用方針	主として、円貨建の短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	純 資 産 総 額
		期 中 騰 落 率		
	円	%	%	百万円
11期(2022年3月1日)	9,994	△0.1	76.0	76
12期(2023年3月1日)	9,991	△0.0	74.7	76
13期(2024年3月1日)	9,986	△0.1	74.7	76
14期(2025年3月3日)	9,987	0.0	98.2	1,206
15期(2026年3月2日)	10,028	0.4	97.2	1,211

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

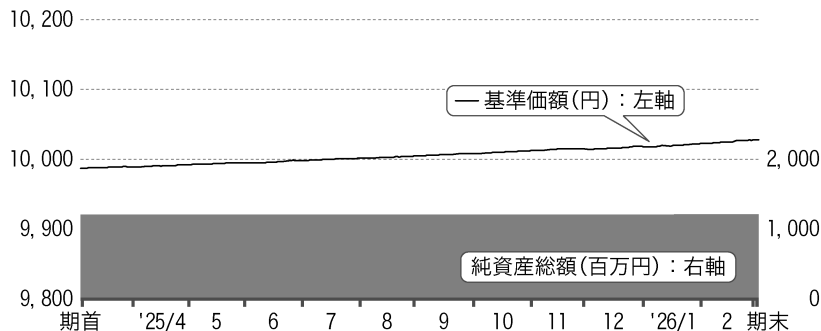
年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
		騰 落 率	
(期 首)	円	%	%
2025年3月3日	9,987	—	98.2
3月末	9,989	0.0	98.2
4月末	9,992	0.1	98.0
5月末	9,995	0.1	97.9
6月末	9,998	0.1	97.7
7月末	10,002	0.2	97.7
8月末	10,005	0.2	97.6
9月末	10,008	0.2	97.5
10月末	10,013	0.3	97.5
11月末	10,015	0.3	97.4
12月末	10,018	0.3	97.3
2026年1月末	10,023	0.4	97.3
2月末	10,028	0.4	97.2
(期 末)			
2026年3月2日	10,028	0.4	97.2

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

基準価額等の推移



期首	9,987円
期末	10,028円
騰落率	+0.4%

▶ 基準価額の主な変動要因 (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当ファンドは、円建ての公社債および短期金融商品などへ投資しました。

上昇要因

- ・日銀が2025年12月に追加利上げを行ったことを受け、短期公社債や短期金融商品の利回りが上昇したこと

▶ 投資環境について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

短期金利は上昇しました。

食品価格の高止まりを背景にCPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）は前年比+2%以上の推移が継続しました。期末にかけては、ガソリン暫定税率の廃止や生鮮食品を除く食料品価格の伸び率縮小を背景に前年比+2%まで低下しました。日銀は国内経済・物価が見通しに沿って推移していると判断し、12月に開催された金融政策決定会合で、日銀当座預金付利金利を0.75%に引き上げることで無担保コール（金融機関同士のごく短期の資金の貸借）翌日物金利を0.75%程度で推移するよう促すことを決定しました。

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、トランプ政権による関税政策の影響や、国内の政治動向をにらみ一進一退の動きとなりましたが、日銀が利上げ姿勢を維持しているとの見方に変化はなく、期初から11月にかけては緩やかな上昇基調で推移しました。その後は、利上げの地均しともとれる観測報道が相次ぎ、実際に12月に行われた金融政策決定会合では利上げが決定されたことから、利回りは上昇基調で推移しました。期末にかけても、日銀が利上げ姿勢を維持しているとの見方に変化はなく、利回りは緩やかな上昇基調となりました。

▶ ポートフォリオについて (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

▶ ベンチマークとの差異について (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

2025年12月に日銀が政策金利の誘導目標を0.75%へ引き上げ、その後も追加利上げの姿勢を維持していることから、短期ゾーンの利回りは上昇基調での推移を予想します。

引き続き残存1年3ヵ月までの円建ての公社債および短期金融商品で構築したポートフォリオを維持し、利子等の安定した収益の確保を目指して運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当期中における記載すべき項目はありません。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	4,569,140	— (4,581,400)

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※()内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2025年3月4日から2026年3月2日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2025年3月4日から2026年3月2日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2026年3月2日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区分	期				末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	1,179,000 (1,143,000)	1,177,024 (1,141,161)	97.2 (94.2)	— (—)	— (—)	— (—)	97.2 (94.2)
合計	1,179,000 (1,143,000)	1,177,024 (1,141,161)	97.2 (94.2)	— (—)	— (—)	— (—)	97.2 (94.2)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示
国内(邦貨建)公社債

種 類	銘 柄	期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
国 債 証 券	342 10年国債	%	千円	千円	
	1362国庫短期証券	0.1000	12,000	11,996	2026/03/20
	148 5年国債	—	1,132,000	1,130,187	2026/05/18
	344 10年国債	0.0050	11,000	10,973	2026/06/20
	345 10年国債	0.1000	12,000	11,948	2026/09/20
		0.1000	12,000	11,917	2026/12/20
小 計		—	1,179,000	1,177,024	—
合 計		—	1,179,000	1,177,024	—

■■ 投資信託財産の構成 (2026年 3 月 2 日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 1,177,024	% 97.2
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	34,192	2.8
投 資 信 託 財 産 総 額	1,211,216	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2026年 3 月 2 日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	1, 211, 216, 377円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	34, 179, 486
公 社 債 (評 価 額)	1, 177, 024, 078
未 収 利 息	12, 584
前 払 費 用	229
(B) 純 資 産 総 額 (A)	1, 211, 216, 377
元 本	1, 207, 872, 716
次 期 繰 越 損 益 金	3, 343, 661
(C) 受 益 権 総 口 数	1, 207, 872, 716口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (B/C)	10, 028円

※当期における期首元本額1, 207, 872, 716円、期中追加設定元本額0円、期中一部解約元本額0円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6 第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

高成長インド・中型株式ファンド	17, 711, 132円
アジア好利回りリート・ファンド	99, 971円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	7, 742, 960円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	1, 337, 053円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジあり/3ヵ月決算型)	4, 909, 194円
三井住友・ビムコ・ストラテジック・インカムファンド (為替ヘッジなし/3ヵ月決算型)	1, 456, 790円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (為替ヘッジなし)	14, 208, 735円
日興ブラックロック・ハイ・クオリティ・アロケーション・ファンド (限定為替ヘッジ)	1, 237, 272円
アジア好利回りリート・ファンド (年1回決算型)	997円
グローバル自動運転関連連株式ファンド (為替ヘッジあり)	4, 140, 881円
グローバル自動運転関連連株式ファンド (為替ヘッジなし)	11, 065, 647円
グローイング・フロンティア株式ファンド	2, 185, 185円
高成長インド・中型株式ファンド (年1回決算型)	7, 882, 655円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジあり/年1回決算型)	20, 035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジなし/年1回決算型)	20, 035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジあり/年4回決算型)	20, 035円
フォントベル・世界割安債券ファンド (為替ヘッジなし/年4回決算型)	20, 035円
トータルヘッジ用ファンドMUT 1号<適格機関投資家限定>	1, 133, 814, 104円

※上記表中の受益権総口数および1 万 口 当 た り 基 準 価 額 が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6 第 7 号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

<約款変更について>

- ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、記載変更を行うため、信託約款に所要の変更を行いました。(適用日：2025年 4 月 1 日)

■ 損益の状況

(自2025年 3 月 4 日 至2026年 3 月 2 日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	4, 938, 181円
受 取 利 息	4, 938, 181
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 43, 213
売 買 益	159, 214
売 買 損	△ 202, 427
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	4, 894, 968
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△1, 551, 307
(E) 合 計 (C + D)	3, 343, 661
次 期 繰 越 損 益 金 (E)	3, 343, 661

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。